

「歴史的事象のつながり」について思考・判断・表現を 促す世界史探究の授業づくり

-比較資料の解釈ワークと、まとめワークを通して-

令和7年度 神奈川県立総合教育センター
長期研究員 寺垣 知也(県立上溝南高等学校)

【研究の概要】

高等学校地理歴史科の「世界史探究」は、世界の歴史の大きな枠組みと展開について考察・構想し、地球世界の課題を探究する科目である。授業では、主体的・対話的な学びを通して、深い学びを実現することが求められている。本研究では、授業の序盤に「比較資料の解釈ワーク」を、授業の終盤に価値判断の視点を通じた「まとめワーク」を一連の活動として行い、これら二つの活動を導入した授業づくりを実施した。生徒に教科に対する興味を喚起し、歴史的事象を関連付けてつなげることで、思考力・判断力・表現力を高めることをねらいとし、効果を検証した。その結果、「比較資料の解釈ワーク」と「まとめワーク」を取り入れた授業は、思考力・判断力・表現力の向上につながることが示された。

【目標】

歴史的事象を相互に関連付けることで、
思考力・判断力・表現力を高める。

- 学習内容について、多様な視点で解釈し、発見や気づきを表現する。
- 他者と視点を共有し、柔軟に考えを取り入れて表現する。

興味・関心を基に、歴史的事象をつなげる
世界史探究の授業

比較資料の解釈ワーク

- 授業内容について関心を高める
- 授業内容の見通し、予想を立てる

まとめワーク

- 生徒自身が追究したいテーマを振り返る
- 対話を通し、深めた内容を練り直す

【生徒の課題】

主体的に発言・
発信する。

多様な視点で考察
する。

他者と対話
する。

【上溝南高校の教育目標】

- 基礎的学力を土台とした思考力・判断力・表現力を育成する。
- 高い徳性と豊かな情操を養う。

はじめに

1 求められている世界史探究の授業

平成 28 年に中央教育審議会により示された「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」では、「主体的に社会の形成に参画しようとする態度や、資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分」(中央教育審議会 2016)であると指摘されている。授業では、「社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動を充実」(中央教育審議会 2016)することが求められている。これを受け、平成 30 年に改訂された現行の『高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)』(以下、『学習指導要領』という)でも、同様のポイントが重要事項として強調されている。

必修科目である「歴史総合」に関して、『高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説地理歴史編』(以下、『解説』という)では、「社会の形成者となる生徒が、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を主体的に考察、構想できるように配慮した科目である」(p. 124)と示されている。近現代史について学ぶことで、現代の諸課題の形成に関する歴史を理解するとともに、歴史に見られる課題を把握し、解決を視野に入れて構想することを目標としている。

歴史総合を学んだ後に履修する探究科目の一つとして設置された「世界史探究」に関して、『解説』では、「中学校社会科や『歴史総合』の学習を踏まえ、日本の歴史との関連にも配慮しつつ、世界の歴史への興味・関心を高め、生徒が抱いた疑問や追究してみたい事柄について表現した問いを基に、世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色を考察」(p. 272)することが示されている。歴史総合と比較して、自ら問いを表現し、それを踏まえた課題を設定し、考察、構想する必要性がより強調されている。歴史総合の学習を基礎として、世界の大きな枠組みと展開について学んだ上で、最終的には地球世界の課題の形成に関わる世界の歴史について、主体的に探究する考察が可能となるよう意図している。

科目の目標を達成するため、授業では生徒が主体的に問いを表現し、協働的な学びを通して、多様な考察ができるように構成する必要がある。

2 所属校の生徒の実態

今回の研究を進めるにあたり、所属校の地理歴史科の教員 7 名に生徒の実態について聞き取りを行った。聞き取りの結果では、過半数の教員が「真面目に授業に取り組むものの、自分達で考え、より発展的な考察

をする力は必ずしも十分ではない」と感じていることが分かった。また、「課された課題はこなすものの、自分の考えで一から問いを立て、解決していくような探究的な学びを自主的に行うことは得意ではなく、必ずしも授業を通して実践できていないこと」が分かった。私自身も生徒の実態に関して、同様に感じている。以上の現状を踏まえ、所属校の課題は「生徒が主体的に考える時間を確保し、対話を通して新たな気づきを得られるような授業実践を行うこと」と認識した。

所属校の生徒の課題をより明確にするために、生徒に対して世界史探究に関する事前アンケートを行った。このアンケートは、検証授業についての考察(検証結果)の上でも用いている。「授業に意欲的に取り組んでいるか」という項目について、「あてはまる」と答えた生徒が 32%、「どちらかといえばあてはまる」と答えた生徒が 57%であった。授業に対する意欲はある程度あるものの、より主体的で積極的な意識を持ちながら取り組んでいる生徒の割合は、必ずしも高くないと言える。加えて、「話し合い活動をする上で、意識していることは何か」という対話に関する質問では、自らの意見を分かりやすく伝えたり、相手の話を丁寧に聞いたりすることに関して多くの意見が挙がったものの、約 6 割の生徒が、対話から新しい気づきを得たり自分にはない視点を得たりすることにまで意識が及んでいないことが分かった。このことから、生徒が話し合い、多様な視点で考える場面を設定した授業をより意識的に展開していく必要があると考えた。

以上を踏まえると、日々の授業においては生徒が主体的に取り組み、対話する時間を確保しながら、思考力・判断力・表現力を高めていくことが大切だと考える。

3 研究に向けて

求められている世界史探究の授業や所属校の実態を踏まえ、思考力、表現力、判断力を高める研究を進めていきたい。世界史探究において、対話を通して思考力・判断力・表現力を高めるためには、どのような授業をしたらよieldろうか。『学習指導要領』では、世界史探究の目標の一つとして、「(2)世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察」(文部科学省 2018 p. 70)することが、育成を目指す資質・能力の一つとして述べられている。思考力・判断力・表現力を高めるにあたっては、歴史的事象同士の関連性に気づき、つながりを意識して思考する活動を繰り返すことが重要である。活動を繰り返すことが、学習内容に対する理解を促進するとともに、様々な情報を吟味し、議論する際

の土台になる力を付けることにつながると考えられる。

また、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」(文部科学省 2017)では、具体例を基に、考察の根拠となる資料(文章、絵、映像、遺物等)を用意し、一つひとつの学習内容に関して様々な立場から話し合う場面を設定することで、多様な解釈かつ「深い学び」につながることが示されていることから、考える力を高める上で、様々な立場から考察する授業を実践することが大切であるとまとめられている。

日々の授業においては、歴史的事象の関連性を見出すための手立てを繰り返し行い、生徒の思考の変容を促すことが求められる。

以上のことから、本研究では「歴史的事象を関連付けながら多様な視点で思考し、対話を通して思考力・判断力・表現力を高めることを目標とした授業づくり」を取り扱うこととした。

研究の目的

世界史探究の授業において、生徒が歴史的事象相互の関連性を見出しながら、思考力・判断力・表現力を高める。

研究の内容

1 先行研究

田村(2018)は、「深い学び」について、「知識や技能が相互に関連付けられたり組み合わせられたりして、構造化したり身体化したりしていくこと」(田村 2018 p. 36)であると述べている。また、正解としての答えを一言で求めない、「開かれた問い」の重要性を主張しており、「開かれた問いが、子供の知識と知識を関連付け、結び付けて構造化した知識を生み出すことに向かう」(田村 2018 p. 99)と述べている。

さらに、島村ら(2021)は、学習内容で扱った情報の中から、生徒自身が信憑性や重要性の高いものを取捨選択し、その根拠を明らかにして表現する活動を、価値判断と呼び、価値判断を軸にした授業の有効性を主張している。価値判断を問う授業を繰り返すことで、漠然とした理解だった学習内容が鮮明になり、同時に生徒自身が選択した内容の是非を探究するきっかけになると示している。

大和田ら(2023)は、社会的な価値が対立するような問いをあえて立てることで、それをきっかけとして生徒が討論を行い、自らの考察がより深まることを主張している。

島村ら(2021)、大和田ら(2023)は、いずれも特定のものから何かを選ばせ、その選んだ理由や妥当性を生徒自身に考えさせることが生徒の考察を深化させると

主張している。

これらを参考にして、本研究では「多面的・多角的に考察したことを基にして他者と対話することで、新たな気付きを得るとともに、得られた気付きによって学習内容に対してより深く考察できるのではないか」という点を明らかにしたいと考えた。

2 用語の定義について

(1) 歴史的事象とは

歴史の展開に関わる事柄や出来事。

(2) 「歴史的事象をつなげる」とは

- ・他の時期や年代との関連性を見出すこと。
- ・現代社会との関連性に着目すること。
- ・他地域と比較して、類似点や相違点に着目すること。

これらの活動を、「歴史的事象をつなげる」と定義する。

3 研究仮説

これらを踏まえ、研究仮説を以下のように設定した。「世界史探究の授業において、比較資料の解釈ワークとまとめワークを、対話をしながら繰り返すことで、歴史的事象を関連付け、思考力・判断力・表現力を高めることができる」

4 検証授業

(1) 概要

【期間】令和7年9月12日(金)～9月25日(木)

【対象】神奈川県立上溝南高等学校
第2学年1クラス(37名)

【科目】世界史探究

【単元名】南アジア世界と東南アジア世界の展開

【時数】6時間

【授業者】寺垣 知也

(2) 単元の評価規準と学習内容

表1 単元の評価規準

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・南アジア・東南アジアの風土・宗教の特色と、各王朝の統治体制の特色と変遷について理解している。	・南アジア・東南アジアの国家・社会の変容と、周辺諸地域との関係性及び宗教を中心とする文化的な諸事象の関連性について、多面的・多角的に考察し表現している。	・南アジア・東南アジアの国家・社会の歴史の変遷とその特色について多面的・多角的に考察することを通して、自らの考えを主体的に表現し、追究しようとしている。

表2 単元の学習内容

次	時間	学習内容
1	1	都市国家の成長と新しい宗教の展開
	2	統一国家の成立／クシャーナ朝と大乘仏教
	3	インド洋交易と南インドの諸王朝
	4	グプタ朝とインド古典文化の黄金期／地方王権の時代
2	5	東南アジアの風土と人々
	6	南アジア・中国文明の受容と東南アジアの国家形成

(3) 学習の流れ

授業の流れは、大きくア～ウの三つのSTEPに分けた。6時間の検証授業全てにおいて、同じ流れで学習を進めた。

以下、検証授業の流れを示す。図1と図3は実際に授業で使用したワークシート(生徒の記述内容含む)の一部である。

ア 比較資料の解釈ワーク(STEP 1)

STEP 1においては、比較して考察できる複数資料を用いて、以下の流れで取り組む。①共通点と相違点の双方を記述する。さらに、②記述した共通点と相違点について、ペアで対話する。また、自らの思考と対話を通した上で面白いと思った視点について記述する。

STEP 1 比較資料の解釈ワーク



<p>①共通点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川の近くに人がいる。 ・水に触れている。 	<p>①相違点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・左の画像はにぎやかで、右の画像は控えめな感じ。 ・左の画像では体ごと水に浸かっているが、右の画像は手だけ水につけている。
<p>②相手の意見で興味深いと思ったところ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらも宗教的である。 ・右と左で服装がかなり違う。 	

図1 比較資料の解釈ワーク(STEP 1)のワークシート

イ 一斉授業(STEP 2)

STEP 2では、教科書の内容理解等、ワークシートを用いて学習する。単元に必要な知識を学ぶとともに、本時の目標を確認した上で、学習内容の理解を深める。一斉授業の終わりには、学習内容の要点を提示した。

ウ まとめワーク(STEP 3)

STEP 3では、その授業全体に関わる学習内容をまとめる。①生徒自身が重要だと考えるものを選ぶ。②その理由を記述する。必要に応じて教科書・ワークシート等を用いて選んだものについて、詳しい情報や興味深いと感じた点を、生徒が自由に調べる。③生徒が考えたものに関して、他者と対話しながら、興味深いと思った点を記述する。④対話で得た気付きを基に、改めて文章をまとめる。

異なった視点を取り入れることで、自らの主張の足りない点を補完し、記述できるようになることを、ねらいの一つとしている。なお、図2では、参考として1時間目で使用した問いの例を載せている(重要だと考えたものを選ぶための問い)。

○1時間目 「まとめワーク」の問い

インドの宗教に関して、自分が一番深めたいと思ったものを一つ選び、ワークに取り組もう。

A. バラモン教
B. 仏教
C. ジャイナ教

図2 まとめワーク(STEP 3)の問いの参考例

STEP 3 まとめワーク

<p>①重要だと考えたもの バラモン教</p>	<p>④まとめ (相手の意見を必ず入れよう!)</p> <p>仏教は、煩惱を捨て、解脱を図っている。ジャイナ教は、不殺生、無所有。バラモン教は、民間信仰から信仰の幅を広げた。</p>
<p>②理由 仏教やジャイナ教がバラモン教を批判したため、その理由を探りたい。</p>	
<p>③相手の意見で興味深いと思ったところ ジャイナ教は無所有。 仏教は解脱を目指す。</p>	

図3 まとめワーク(STEP 3)のワークシート

エ 二つのワークの共通点

比較資料の解釈ワーク、まとめワークのいずれにおいても、他者との対話を通して気付いた点を記述する欄を用意した。なお、二つのワークの実施前には、以

下の指示を出した。第一に「他者の意見で自分が持っていないものを必ず記述すること」、第二に「教科的な見方・考え方が意識できるようなキーワードを生徒に示し、ワークを行うこと」である。理由としては、対話を通して新たな気づきを自分の考えに取り入れることができるようにするとともに、学習内容に対する考えを深めたいと考えたからである。

(4) 検証授業の評価基準

表3は、検証授業の評価基準であり、研究の目的に合わせて、思考力・判断力・表現力を評価するために作成した。なお、評価基準(表3)は、学習指導要領を参考にして作成した。

表3 検証授業の評価基準

評価基準	
A	学習内容を踏まえた上で、諸事象の推移や時系列に関わる視点、事象間の類似・差異・特色や事象相互のつながりに着目し、多面的・多角的に考察し、自らの考えを深化させている。
B	学習内容を踏まえた上で自分の考えを記述し、他者の意見を汲み取って考察している。
C	自分の考え、他者の意見に関する記述が不十分であり、新しい気づきの視点をいかしていない。

5 検証方法

(1) ワークシート

ワークシートの記述内容により、「生徒が自分の考えを深め、思考力・判断力・表現力を高めることができたか」「他者と対話を通して歴史的事象の関連性の気づきを得ることができたか」を検証した。

(2) アンケート調査

検証授業前後に、質問紙を用いて「世界史探究の授業で考えることや表現すること」についてどのように捉えているのかを知るため、生徒対象のアンケートを行った。アンケートの形式は選択式、自由記述式の両方を併用した。

6 検証結果と考察

(1) ワークシート

ア ワークシートの評価から

図4は、ワークシートの記述内容について、評価基準(表3)のA～Cの三段階に評価した際の分布を表している。また図5、6は、特定の視点で記述された割合の分布を表している。

生徒のワークシートを評価し、その中でも1時間目と6時間目の変化に注目し事前と事後の分布を比較した。その結果、A評価の生徒が8%から42%と34ポイント増加した(図4)。

記述の分析に関しては、「まとめワーク」の「④まとめ」を中心に分析した。その理由は、まとめワーク

では、授業の振り返りと対話を通じた多様な視点を盛り込んで書くことを想定しているため、授業理解と対話を通じた成果が反映されていると考えたからである。

図5は、「他者の視点を盛り込んだ記述の割合」の記述の変化である。他者の視点を盛り込んで記述ができていた生徒の割合が、46%から68%と、22ポイント増加した。1時間目と比較し6時間目では、他者と対話した上で、自分の意見だけでは足りない視点を他人の意見を結び付けながら、まとめを記述することができる生徒が増えた。

図6は、他地域とのつながりについて言及している記述の割合の変化である。他地域とのつながりについて言及している記述の割合が、16%から43%と27ポイント増加した。単元の内容について、他地域との結びつきを意識した上での記述が増え、より地理的に広く、多角的な視点で考察する生徒が増えたことが読み取れる。

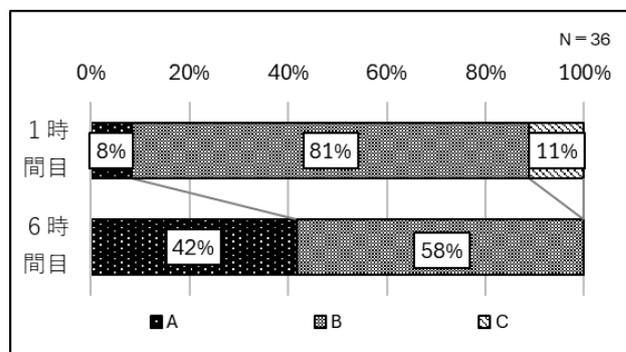


図4 生徒のワークシートの評価基準の分布

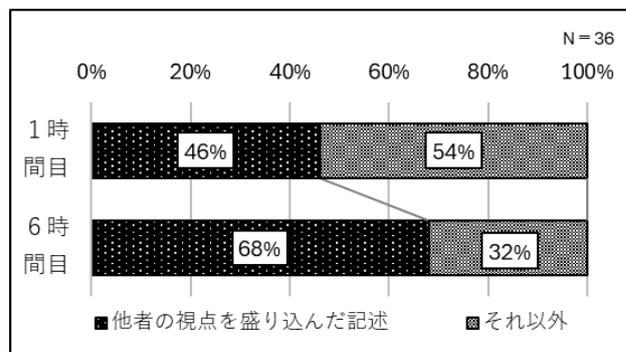


図5 他者の視点を盛り込んだ記述の割合

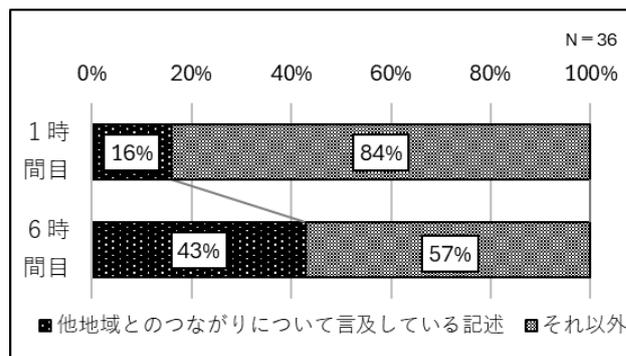


図6 他地域とのつながりについて言及している記述の割合

イ 生徒の具体的な記述から

まとめワークの具体的な記述からも、変容を見取った。まとめワークの質問(表4)に対する3名の生徒の記述をまとめた(表5~7)。なお、1時間目と5時間目、6時間目を比較して、記述の変容が大きかった生徒を事例として挙げている。その理由は、第一次単元(インド)の終了後(4時間目終了後)、改めて学習内容と各ワークの取組に関してフィードバックを行い、また1時間目と5時間目、6時間目の記述を掲載し、変化を見取ったためである。

表4 まとめワークの質問項目と選択肢

1時間目	インドの宗教に関して、自分が一番深めたいと思ったものを一つ選び、ワークに取り組もう。	A. バラモン教 B. 仏教 C. ジャイナ教
5時間目	東南アジアの風土を特徴づけるものは何だろうか。自分が一番深めたいと思ったものを一つ選び、ワークに取り組もう。	A. 地理(気候や立地) B. 港市国家 C. 香辛料
6時間目	東南アジアの遺跡に関して、自分が一番深めたいと思ったものを一つ選び、ワークに取り組もう。(宗教・他地域とのつながりを意識)	A. アンコール=ワット B. パガンの仏教遺跡群 C. ボロブドゥール

生徒Aは、1時間目では抽象的な記述に留まっていた。しかし、5時間目では「香辛料が当時高い価値を持ち、交易を通して外国とつながりを持ったこと」と記述している。また、6時間目では「他地域から宗教が伝播し、遺跡にその特徴が見られること」を記述し、さらに「現在の東南アジアの宗教的共存」に関して言及することができている。

表5 生徒Aの記述

1時間目	様々な考えの宗教があり、思想一つひとつも違うのだと思った。
5時間目	住みやすい気候や環境ではないが、香辛料などの豊かな資源を船を利用して交易することで発展していった。金と並ぶ価値であった香辛料のおかげで早くから外国との関わりがあったため、その存在は大きいのだと分かった。
6時間目	アンコール=ワットやボロブドゥールなど宗教に影響を受けて作られた遺跡は、仏教・ヒンドゥー教の勢力を強めただけでなく、他国とのつながりを深めていった。そのため現在は、様々な人が共存し

	ている東南アジアが形成されたのだと思った。
--	-----------------------

生徒Bは、1時間目の記述では宗教が社会に与える影響に関して、一般論的な結論になっている。しかし、5時間目では東南アジアの地理的特徴が、香辛料を始めとする交易の発達に影響して港市国家の成立につながったことについて言及している。また、6時間目では「歴史的な遺跡と宗教の関連性に触れ、宗教が当時の人々や文化に与えた影響の大きさ」について記述している。

表6 生徒Bの記述

1時間目	仏教は煩惱を捨てることで輪廻への解脱をすることができる。バラモン教はカースト制度を用いた思想。ジャイナ教は非暴力など他とは異なる思想をもった宗教でもある。
5時間目	東南アジアではその気候を利用した海上交易を行ったことにより、海外とのやり取りが行いやすくなった。またその交易品として多くの人の需要があった香辛料を輸出することでたくさんの物を取り入れることができたと考えられる。そして降水量の多さや、雨季・乾季などがなければこうした港市国家は生まれなかったと思うため、そういった地理的条件も重要であると思われる。
6時間目	アンコール=ワットは国旗にも描かれていたり王の墓ともなっていたことから当時の重要度が分かる。それらがヒンドゥー教や仏教の影響を受け、レリーフなどが作られていたことが、他国とのつながりを感じ取る要因であると思う。またボロブドゥールや宗教遺跡群からもその作りや特徴を見ることで宗教の影響と共に、地域へのつながりが読み取れる。

生徒Cは、1時間目から授業内容と自分の意見を組み合わせて書くことができているものの、並列的な記述に留まっている。5時間目では「地理的な特徴と香辛料をはじめとする交易に関する記述から東南アジアの地理的な特徴」を読み取り、6時間目では「宗教の共存」という共通項を抽出しながら、授業で扱った「東南アジアと、他地域、他の宗教とのつながり」に関して記述している。また、「現代の東南アジア社会とのつながり」を記述しながら、当時の東南アジア社会の特色を読み取ろうとしている。5時間目、6時間目になると、全体の内容を要約することを意識した上で記述ができるようになっている。

生徒により個別の記述は異なるものの、1時間目と5時間目、6時間目を比べると、多様な視点で見ることができるようになったという点と、現代とのつながり等、学習事項を基にしなが、自分自身の身近な問題についても考えることができるようになっている点は共通していると言える。

表7 生徒Cの記述

1時間目	仏教では心の内面から、人々の悩みを解くことを重視しているが、インドの仏教がどのように世界に広まっていたのか気になった。ジャイナ教では、不殺生などの厳しい教えがあるが、それらを人々はどのように守っているのか気になった。
5時間目	東南アジアは、河川や大河を使った交通が発達した。海では海上交易の発達にもなって海を中心とした港市国家が誕生した。海はどこの国ともつながっているため、香辛料などの東南アジアの貿易品を遠くへ運ぶことができた。これらの発展は、地域の気候や土地の性質をうまく生かしている。
6時間目	東南アジアは、オケオの遺跡から、周辺国と活発に交易していたことが分かる。特にカンボジアのアンコール=ワットでは、二つの宗教が共存して独自の文化を創出しており、二つの宗教が争わないで存在しているのが、人々の宗教的対立をなくし、世界の平和につながると考えた。ボロブドゥールではレリーフから分かるように二つが共存しているが、どう壊れなかったのか気になった。

(2) アンケート調査

検証授業の前後でアンケートを行い、取組に対する変容を見取った。取組に関する意識や、思考力・判断力・表現力に関する意識付け、授業構成について感じたことの変容を確認したいと考えた。各設問の回答は4件法と記述で行った。

ア 授業・対話に対する意識

授業を通して学びに向かう姿勢や意識が変容したかどうかを確認するため、アンケートを行った。「意欲的に取り組んでいますか」という問いに対し、33%から67%と、34ポイント上昇した。7割弱の生徒が意欲的に取り組んでいたことが分かる(図7)。

事前アンケートと事後アンケートで、「話し合い活動をする上で、意識していることは何ですか」という項目を設けた。その結果、事後アンケートでは新たに13人の生徒が、「他の人の意見をしっかりと聞く」「他の人の意見を取り入れる」「対話を基に新たな気付きを得る」という視点で、記述していた。このことから、「対

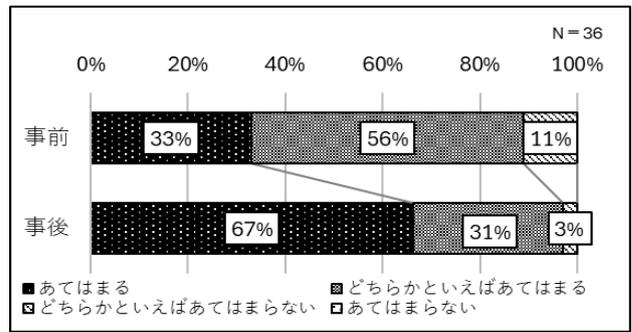


図7 意欲的に取り組んでいるか

話活動を基にして、新たな気付きを得て、多角的な視点で事象を考えること」の意義を理解する生徒が増加したと考えられる。

表8は、対話に対する生徒の意識の変容である。以下に事前アンケートと事後アンケートの変化を見取った。なお、A~Cの生徒は、前述のまとめワークで取り上げた生徒とそれぞれ対応している。

事前アンケートでは「自分の意見をいかに相手に上手に伝えるか」という視点や、「相手の意見を否定しないで聞く、正確な情報を基に話す」等の記述が多かった。しかし、事後アンケートでは「自分にはない視点を主体的に聞くこと」「相手の意見を聞きながらその妥当性を考え、自分の意見と交えながら聞こうとしている」と回答した生徒が増えた。対話を通じて他者の意見を汲み取りながら、自分と違う意見を積極的に收拾することで、自らの考えを広げたり、新しい気付きを得ることに自覚的になり、その重要性を認識する生徒が増えたことが示唆される。

表8 対話に対する生徒の意識の変容

生徒A

事前	自分の考えと相手の考えを比較して考えた上で理解できるようにしていること。意見とその理由も話すようにしています。
事後	なぜそう考えるのか、理由も付けて話し合いをしている。

生徒B

事前	相手の意見を否定しないで聞くこと。
事後	相手の意見が自分の意見と異なる部分をよく聞くようにしている。

生徒C

事前	相手の考えを否定せず、そういう意見もあるんだと受け止めて、自分の意見も伝えるようにしている。
事後	新しい視点の意見はメモをとったり、質問をしたりしている。

生徒D

事前	自分の意見を話すこと
事後	話をしっかりと自分の意見と照らし合わせながら聞く。

生徒E

事前	相手にきちんと伝わるように自分の意見とその理由も話すようにしています。
事後	相手の話を聞き、自分になかった視点からの意見を書き留めて、自分の考えと交えて考えることです。

イ 考えを広げることに対する意識

考えを広げることに関するアンケートを集計したものが、図8～10である。「歴史的事象をつなげること」に関連性が強いと考え、これらの設問を設定した。ここでいう「考えを広げる」とは、他者の意見や視点を受け入れ、自分の考えに取り込むことで、歴史的事象をつなげることである。

「異なる立場や視点を意識して考えようとしているか」という問いに対して、あてはまると答えた生徒が28ポイント上昇した(図8)。「新しい考えに気付くことがあるか」との問いに対しては、肯定的な意見が97%になった(図9)。

「複数の情報を組み合わせて、自分の考えに深みを加えていますか」という問いに対し、「あてはまる」と答えた生徒が17ポイント上昇し、「どちらかといえばあてはまる」と答えた生徒も加えると、肯定的な意見が92%に増加した。一方で、「ややあてはまる」と回答した生徒が61%に達し、先の二つの質問と比較すると、「あてはまる」の割合がやや低かった(図10)。

授業を通して生徒が自分以外の考えに触れながら、自分と異なる視点に注目し、新しい気付きを得ることを意識する生徒が増えたことが示唆される。

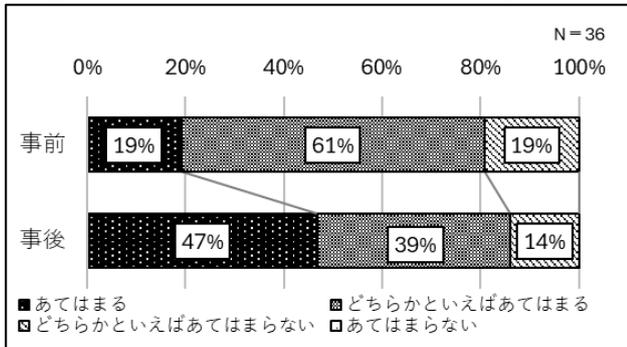


図8 異なる立場や視点を意識して考えようとしているか

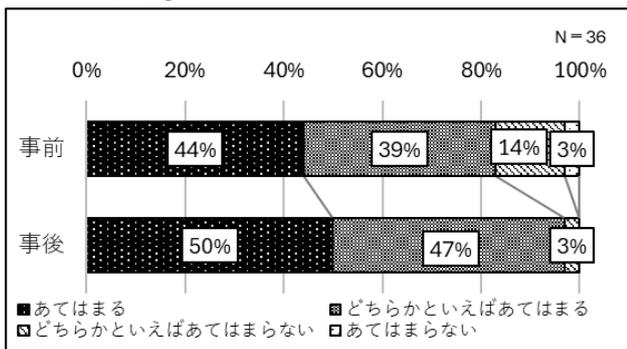


図9 新しい考えに気付くことがあるか

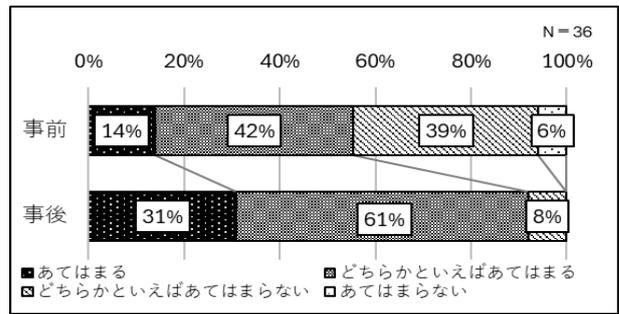


図10 複数の情報を組み合わせて、自分の考えに深みを加えているか

ウ 自分の意見を持ち、根拠立てて考えることに関する意識

情報や知識を精査して自らの考えを形成することができたのか確認するため、これらの設問を設定した。「自分の意見を持つようとしているか」に問いに対しては、肯定的な回答をした生徒が95%以上になり、「あてはまる」と答えた生徒が14ポイント上昇した(図11)。理由としては、資料の解釈ワークやまとめワークを中心に、毎時間自分で考え、記述する時間を確保し、理由を記述する項目を設けた事が考えられる。

一方で、根拠を持って答えられるかという問いに対しては、「どちらかといえばあてはまる」と答えた生徒は11ポイント増えたものの、「あてはまる」と回答した生徒は増加しなかった(図12)。この結果は、授業を通し、自分の意見に対して、根拠立て、論理立てて述べる事が必ずしもできなかった生徒が多くいる可能性が高いことを示している。自分の考えた意見の妥当性を検証する時間を確保することや、記述した内容の精度を上げる活動が必要であった可能性がある。

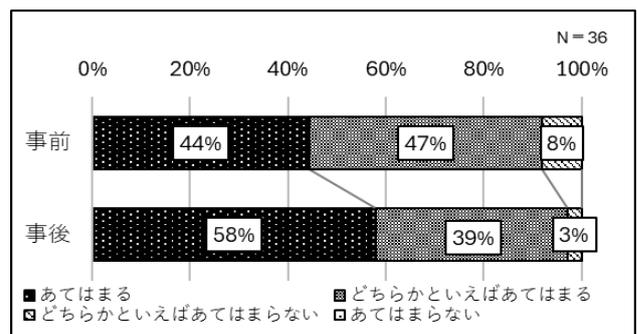


図11 自分の意見を持つようとしているか

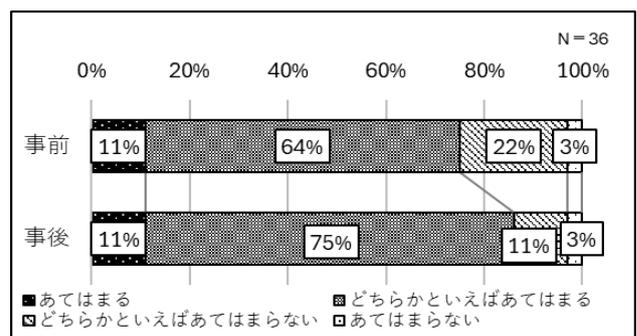


図12 根拠や理由を持って説明することができるか

エ 授業中の各ワークと構成に関して

授業の各ワークと授業全体の構成に関して、生徒が取り組みやすく効果的であったかを確認するため、これらの設問を設定した比較資料の解釈ワーク、まとめワークに関する記述、授業全体の流れに関しては、事後アンケートのみ行った。

図13は、「比較資料の解釈ワーク(STEP 1)は、自分の考えを広げたり深めたりする上で有効でしたか」という問いに対する回答をまとめたものである。9割以上の生徒が有効であったと回答していた。

また、表9は「比較資料の解釈ワーク(STEP 1)は、どのようなところが有効でしたか(有効でなかったでもかまいません)」という質問に対する、生徒の記述の一部である。

「資料を比較することでその単元の重要内容について考えやすくなる」点に注目した回答や、「授業の最初に行うことで、授業全体の流れを掴む上で役に立ったり、授業の導入として活用したことで、その後の一斉授業に取り組みやすくなった」との回答が複数あった。比較資料の解釈ワークは、本格的な授業の内容に入る前に、学習内容をイメージ付けたり、授業中の重要事項を学ぶ準備段階としての役割を果たしていたと考えられる。また、そのための手段として資料を比較する手法が、一定程度効果的であったと考えられる。

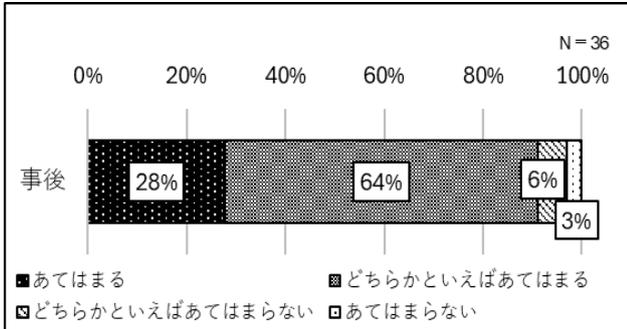


図13 比較資料の解釈ワーク (STEP 1)は、自分の考えを広げたり深めたりする上で有効であったか

表9 比較資料の解釈ワークに関する生徒の記述例

<p>○ワークそのものに関する記述</p> <ul style="list-style-type: none"> 共通点と相違点を探すから資料をよく見ることができた。 自分の知らない世界や、些細な違いを見付けることが楽しくて、記憶に定着しやすそうだった。 <p>○授業の導入に関する記述</p> <ul style="list-style-type: none"> 写真の内容や背景がずっと頭に入ってきて、授業全体の流れを掴むのに効果を感じた。 写真を見比べて自分で相違点を見付けようとする中で、授業の内容に対する理解がより深まった状態で授業をスタートできた。
--

続いてまとめワークに関して述べる。まとめワークにより、授業の回数を重ねる度に他の生徒の意見を汲み取った上で自分なりに単元のまとめの文章を書くことができるようになったと考えられる。

図14は、「まとめワーク(STEP 3)は、自分の考えを広げたり深めたりする上で有効でしたか」という問いに対する答えである。まとめワークを通して、自分の考えを広げたり深めたりする上で有効だったと実感した生徒が97%だった。考えを広げたり深めたりすると感じた生徒が増加したと言える。

表10は、「まとめワーク(STEP 3)は、どのようなところが有効でしたか(有効でなかったでもかまいません)」という問いに対する、生徒の記述の一部である。自分の考えを一度しっかり考えてから他者の意見を組み込む流れになっているため、「異なる選択肢や見方を基に事象間のつながりを見出し、関連付ける助けとなった」等の意見が挙げられている。結果として、学習内容全体のまとめを考える上で有効であったと考えられる。

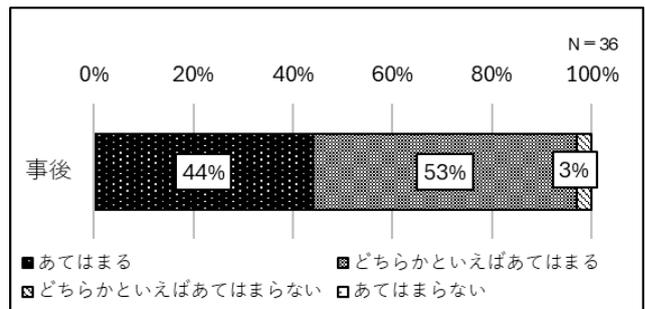


図14 まとめワーク (STEP 3)は、自分の考えを広げたり深めたりする上で有効であったか

表10 まとめワークに関する生徒の記述例

<ul style="list-style-type: none"> 他の人と話した時に異なる選択肢から共通点を見付け出したり、関係付けることが容易であった。 自分の意見をしっかりと考えることができ、相手の意見も聞けて、最後にはそれを踏まえた結論をまとめるため、しっかりと定着した。 まとめを書くときに他の人達の意見も含めて自分の意見がより具体的になったり、他の意見を参考にできたところが有効だった。 一つのテーマに沿って自分の考えを書いたり、人の考えを付け加えたりすることで、自分の考えを整理できたり、さまざまな考え方を知ることができて、自分の考えを広げることができた。
--

図15は、「授業全体の流れは、スムーズに授業に取り組んだり、対話によって新たな気づきを得たりする上で、有効でしたか」という問いに対する回答である。肯定的な回答をした生徒の割合は、81%になった。思考・判断・表現の要素を多く入れ、考える時間

を確保することが、「ただ知識を学ぶ授業よりも学びを深める上で有効であった」とする意見が複数挙がった。

一方で、「どちらかといえばあてはまらない」と答えた生徒の割合が19%に上った。表11は、生徒の記述の一部である。「一斉授業を通してじっくり理解し、確実な知識を習得したいという意見が一定数あった。比較資料の解釈ワークやまとめワークを行ったことで、一斉授業の時間がやや減少し、単元の中での重要な学習事項を丁寧に学習する機会を十分に確保できなかった点は課題として挙げられる。また、有効な対話を行うためには確かな知識が必要であり、一斉授業の中でじっくり理解できる時間を確保することで、初めて対話を有効に行うことができると感じた。

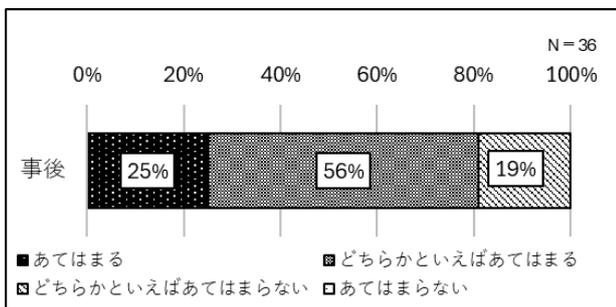


図 15 授業全体の流れ(比較資料の解釈ワーク→一斉授業→まとめワーク)は、スムーズに授業に取り組んだり、対話によって新たな気づきを得たりする上で、有効だったか。

表 11 生徒の記述例

<p>○肯定的な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考判断の要素が多く、ただ知識を学ぶ授業よりもできたからそこが有効だった。 ・資料解釈ワークやまとめワークは、聞いているだけの授業よりずっと楽しみながら、学びを深めることが出来た。 ・資料解釈ワークで、得た気づきを書くことから始めて、一斉授業でその内容をより深めることができた。最後に自分の考えと、周りの人の考えを聞いてまとめる流れが、授業を理解する上で有効だったと思う。 <p>○否定的な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一斉授業で理解しきれなかったことがあると置いていかれてしまうところです。 ・相手と話すことで気付いたことをすぐに共有できることは良いと思ったが、1番深く学びたい一斉授業がさっと終わってしまったことがあまり有効ではないと思った。

以上の検証結果により、比較資料の解釈ワーク、まとめワークを取り入れた授業は、思考力・判断力・表現力を高める上で一定の効果があったと考えられる。

1 研究の成果

今回の検証授業では、比較資料の解釈ワークやまとめワークを用いた授業を繰り返し実施した。成果として、歴史的事象を関連付けて考え、対話を通じた気づきを表現することに関して、一定の有効性が確認できたと考える。さらに、副次的効果として、生徒が学習に対する意欲を高め、対話を通して新しい気づきや視点を得ることの意義を理解するようになったという結果を得た。

2 今後の課題と展望

今回の検証授業では、生徒が歴史的事象をつなげて思考するきっかけとはなかった。一方で、思考力・判断力・表現力をより一層高めるためには、考えた内容を吟味し、批判的に思考するきっかけ作りを行っていくことが求められる。対策として、考えたことに対してフィードバックを行い、自らの考えに対して妥当性を検証する時間を確保することで、より深い思考を促すきっかけにつながっていくと考えられる。

また、他者からの気づきを基に、自らの考えを改めて練り直し再構成する機会を設けることで、授業内容に関する考察を深化させるきっかけになると思われる。加えて、グループやペアで共有した内容をクラス全体で共有し、より良い意見を探す等の方法を採用することも有効と思われる。これらのように、考えた意見を精選し、自らの表現を改善していく活動が必要であると感じられた。

さらに、今回の授業では毎時間、比較資料の解釈ワークとまとめワークを実践したが、毎時間固定して実践するには時間の制約による困難さがあった。対策としては、まず各授業の中で、比較資料の解釈ワーク、まとめワークを、必要に応じて使い分ける手立てが考えられる。アンケートでは、比較資料の解釈ワークとまとめワークそれぞれの有効性が確認された。このことから、予習や復習の中で各ワークを活用することで、授業外の学習を促しながら、授業内の時間を有効活用するという方法も考えられる。

加えて、それぞれのワークは同じ授業で必ずしも両方とも実施する必要はなく、必要に応じて適宜実施する方法も一案として考えられる。各ワークは毎時間行うわけではなく、単元の中で重要だと考えるところで活用することで、より効果的に使用することができると考えられる。

そして、授業の構成においては、単元の中で生徒自身の自然な表現から問いを立て、生徒自らがその問いを基に展開していくことができる授業を作り上げることで、より学びの質が高まっていくと考えられる。

おわりに

本研究を進めるにあたり、所属校教職員の皆様、第2学年生徒の皆様にご理解・ご協力いただいたこと、この指導研究に関わっていただき、ご指導いただいたすべての方々に、深く感謝申し上げます。

[指導担当者]

高木 正樹¹ 清水 翔太¹ 柏木 操男²

引用文献

中央教育審議会 2016 「幼稚園、小学校、中学校、高等学方策等について(答申)」 p. 132

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/__icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf (2025年11月13日取得)

文部科学省 2017 「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」 p. 12

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/__icsFiles/afieldfile/2020/01/28/20200128_mxt_kouhou02_01.pdf (2025年11月13日取得)

文部科学省 2018 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』 東洋館出版社

大和田俊・大西正芳 2023 『考えと対話を引き出す「ジレンマ発問」でつくる中学校社会科授業』 明治図書出版 pp. 10-12

島村圭一・永松靖典編 2021 『問いでつくる歴史総合・日本史探究・世界史探究』 東京法令出版 p. 36

田村学 2018 『深い学び』 東洋館出版社

1 指導主事 2 教育指導員

単元の指導計画（地歴公民・世界史探究）

令和7年9月25日（木）

授業者 寺垣 知也

（総合教育センター長期研究員）

1 単元（題材）名 「南アジア世界と東南アジア世界の展開」

2 単元（題材）の目標

- (1) 南アジア・東南アジアの風土・宗教の特色と、各王朝の統治体制の特色と変遷について理解する。
- (2) 南アジア・東南アジアの国家・社会の変容と、周辺諸地域との関係性及び宗教を中心とする文化的な諸事象の関連性について、多面的・多角的に考察し表現する。
- (3) 南アジア・東南アジアの国家・社会の歴史的変遷とその特色について多面的・多角的に考察することを通して、自らの考えを主体的に表現し、追究しようとする。

3 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・南アジア・東南アジアの風土・宗教の特色と、各王朝の統治体制の特色と変遷について理解している。	・南アジア・東南アジアの国家・社会の変容と、周辺諸地域との関係性及び宗教を中心とする文化的な諸事象の関連性について、多面的・多角的に考察し表現している。	・南アジア・東南アジアの国家・社会の歴史的変遷とその特色について多面的・多角的に考察することを通して、自らの考えを主体的に表現し、追究しようとしている。

4 単元（題材）の指導計画（6時間扱い）○「記録に残す評価」

時	主な学習活動	知	思	態	評価方法
1	・単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ・比較資料を基に、古代インドの宗教的な特色に関して考察し、対話を通して表現する。 ・仏教やジャイナ教など新たな宗教の特色と、それらが生まれた背景について理解する。 ・「まとめワーク」で、重要と感じた学習内容について、対話を通して表現する。	○			【知識・技能】 古代インドにおける新たな宗教の発生と、宗教が社会に与えた影響について理解している。

2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比較資料を基に、古代インドの政治的な特色に関して考察し、対話を通して表現する。 ・ マウリヤ朝とクシャーナ朝を中心とした古代インドの王朝の統治体制の変遷を理解する。 ・ 「まとめワーク」で、重要と感じた学習内容について、対話を通して表現する。 	○		<p>【知識・技能】</p> <p>古代インドにおける各王朝の変遷と特色、他地域とのつながりについて理解している。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比較資料を基に、古代インドの他地域とのつながりに関して考察し、対話を通して表現する。 ・ 「海の道」の交易において、南インドが果たした役割について、諸地域相互のつながり等に着目し、多面的・多角的に考察し、その特質を表現している。 ・ 「まとめワーク」で、重要と感じた学習内容について、対話を通して表現する。 	○		<p>【思考・判断・表現】</p> <p>資料から学習内容に関連する情報を読み取り、考察しようとしている。また「まとめワーク」の中で、自ら重要だと考えた点について要点を的確にまとめ、対話を通して自らの考えを表現している。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比較資料を基に、古代インドの文化的・宗教的な特色に関して考察し、対話を通して表現する。 ・ 古代インド文化の特質について、比較や考察を通して理解を深めると共に、主体的に追究しようとしている。 ・ 「まとめワーク」で、重要と感じた学習内容について、対話を通して表現する。 	○		<p>【思考・判断・表現】</p> <p>資料から学習内容に関連する情報を読み取り、考察しようとしている。また「まとめワーク」の中で、自ら重要だと考えた点について要点を的確にまとめ、対話を通して自らの考えを表現している。</p>

5	<ul style="list-style-type: none"> ・比較資料を基に、東南アジアの地理的な特色に関して考察し、対話を通して表現する。 ・東南アジアの風土や宗教的な特徴について理解する。 ・「まとめワーク」で、重要と感じた学習内容について、対話を通して表現する。 	○	○	<p>【知識・技能】</p> <p>東南アジアにおける風土と宗教の伝播、それらが社会に与えた影響について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>資料から学習内容に関連する情報を読み取り、考察しようとしている。また「まとめワーク」の中で、自ら重要だと考えた点について要点を的確にまとめ、対話を通して自らの考えを表現している。</p>
6 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・比較資料を基に、東南アジアの政治的・宗教的な特色に関して考察し、対話を通して表現する。 ・東南アジアにおける諸地域の統治体制・宗教の特色について理解し、他地域とのつながりについて考察・表現している。 ・「まとめワーク」で、重要と感じた学習内容について、対話を通して表現する。 	○	○	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>資料から学習内容に関連する情報を読み取り、対話を通して考察している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>資料から学習内容に関連する情報の読み取り活動や「まとめワーク」の中で、自らの考えについて主体的に深めようとしている。</p>

5 本時の目標

- ・資料から学習内容に関連する情報を読み取り、対話を通して考察する。

【思考・判断・表現】

- ・授業内容を基に、自らにとって重要と感じた内容を選んだ上で、主体的に考察すると共に、対話を通して自らの考えを主体的に深める。

【主体的に学習に取り組む態度】

6 本時の評価規準

- ・資料から学習内容に関連する情報を読み取り、対話を通して考察している。

【思考・判断・表現】

- ・授業内容を基に、自らにとって重要と感じた内容を選んだ上で、主体的に考察すると共に、対話を通して自らの考えを主体的に深めようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

7 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価の観点 (評価方法)
【本時の問い】：東南アジアは、南アジアや中国とどのように関わりながら、独自の王朝や文化を発展させたのだろうか。		
<p>1.導入(3分)</p> <p>○前回の復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東南アジアの特徴と風土について、簡単に確認する。 <p>○本時の問いについて、確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前回までの学習内容との関わりを想起させる。 	
<p>2.展開①(12分)</p> <p>○個人で、比較資料を用いた資料の読み取りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが気付いたことを、周囲と話し合っ共有する。 ・アンケート結果を、Googleフォームに入力し、内容を全体で共有する。 ・比較資料から読み取れる学習事項を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の人と共有して出てきた新しい気付きを、なるべく書き留めるように伝える。 ・入力した内容を生徒同士で共有するように呼びかける。 ・話し合いだけで終わりにせず、学ぶべき内容を強調する。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>資料に基づいて、多角的に考察し、探究しているか。</p>
<p>3.展開②(20分)</p> <p>○東南アジアにおける、地域ごとの王朝の変遷について、スライド等を参考にしながら、プリント学習に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東南アジアにおける各地域の王朝の変遷について、特徴を捉えながら理解する。 ・特に仏教遺跡の特徴と歴史的意義について理解する。 ・東南アジアと、南アジア・中国の文化的・宗教的つながりを捉える。 ・本時の問いに対する答えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クイズ形式を用いながら、メリハリのある授業を行えるようにする。 ・各王朝の特徴を印象付けられるようにする。 ・南アジアの宗教と東南アジアの遺跡とのつながりが伝わるように強調する。 	
<p>4.まとめ(15分)</p> <p>○まとめワークに、学習事項の中で、各自が重要だと思った項目を選ぶと共に、理由を記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業前半の比較資料の内容を簡単に振り返りながら、まとめワークとのつながりを理解する。 ・必要であれば、教科書やプリントの内容を振り返って読み込みながら記入する。 ・まとめワークの記述を基に、話し合っ内容を共有する。 ・話し合っ気付いたことを書き留める。 ・話し合いを通して気付いた視点を盛り込みながら、各自が学習内容に関するまとめを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が考えたことを十分に考える時間を確保する。 ・気付いたことを書き留めるように呼びかける。 ・話し合いによって得た視点を、なるべく汲み取った上で書くように伝える。 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>授業内容を基に、自らにとって重要と感じた内容を選んだ上で、主体的に考察すると共に、対話を通して自らの考えを主体的に深めようとしているか。</p>

第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開

単元1 「仏教の成立と南アジアの統一国家」(教科書 p. 54～57)

単元の問い：南アジアで生まれた宗教や古代インドの王朝はどのように展開し、外部とどのように関わったのだろうか？

第1回 都市国家の成長と新しい宗教の展開

本時の問い：南アジアで生まれた宗教はどのように展開し、社会にどのような影響を与えたのだろうか。

STEP1 (資料の読み取り)

- ・左の画像はインドのガンジス川、右の画像は日本の五十鈴川（伊勢神宮内を流れる川）の様子である。比べてみて、気付いたことを挙げてみよう。



出典：『図説地理資料 世界の諸地域 NOW 2024』 帝国書院



出典：「フォト蔵」

(共通点)

(相違点)

(話してみて気付いたこと)

STEP 2 (講義)

①都市国家の台頭と社会の変化

①城壁で囲まれた都市国家の誕生

- …政治・経済の中心：前6世紀頃、(1) 上流域から中・下流域へ移動
- 都市国家のなかからコーサラ国・(2) が有力化

②都市国家の発展…豊かな農業生産を背景 に各地との交易が発展

- ・ワーク1 どんな職業の人達が、勢力を拡大した？

- ┌ (3) ・ (4) の勢力伸張
- └ 大きな社会変化のなかで新たな思想や宗教が誕生

②新しい思想・宗教の動向

①(5) …バラモン教の祭式至上主義から転換
内面の思索を重視→輪廻転生からの脱却：解脱を説く

- ┌ 梵(6) …宇宙の本体→同一性を悟る：梵我一如…
一元的世界観
- └ 我(7) …人間存在の本質

②仏教…開祖：(8)
(尊称ブッダ)

- ┌ 心の内面から人々の悩みを解くことを重視
- └ 正しいおこないの実践…煩惱を捨て去る→解脱へと至る

③(9) …開祖：(10)
解脱のために苦行と不殺生を強調

④バラモン教の変化

- ┌ 背景：仏教・ジャイナ教がバラモンの権威やヴァルナ制を否定
- └ 民間信仰を吸収して信仰の幅を拡大
- ┌ ヴェーダの神々に代わってシヴァ神・ヴィシュヌ神が主神となる
- └ (11) の萌芽

(今日の重要キーワード)

(本時のまとめ)

STEP 3 (まとめワーク)

① (深めたいと思ったもの)

② (理由)

④ (結論) 相手の意見を必ず入れよう!

③ (相手の意見で面白いと思ったところ)

第2回 統一国家の成立／クシャーナ朝と大乘仏教

本時の問い：マウリヤ朝とクシャーナ朝のもとで、仏教や文化はどのように発展したのだろうか。

STEP1 (資料の読み取り)

- ・左の画像はガンダーラ仏像（クシャーナ朝）、右の画像はマトゥラー仏（グプタ朝）の画像である。比べてみて、気付いたことを挙げてみよう。



出典：文化遺産データベース

出典：『ニューステージ 世界史詳覧』浜島書店

(共通点)

(相違点)

(話してみて気付いたこと)

STEP 2 (講義)

(1) 統一国家の成立

①統一の機運

前4世紀、アレクサンドロス大王の遠征…西北インドに進出、インダス川流域を転戦
→各地にギリシア系政権の誕生→混乱のなかで〔1. マウリヤ朝〕成立

②マウリヤ朝 (前317頃～前180頃)…南アジア初の統一王朝

①創始者〔2. チャンドラグプタ王〕…マガダ国のナンダ朝を倒しパータリプトラに首都をおく

→インダス川流域のギリシア勢力を一掃→西南インド・デカン地方征服

③〔3. アショーカ王〕の時代：最盛期

征服活動の多大な犠牲者への悔恨

┌〔4. ダルマ〕(法、まもるべき社会倫理)の統治…各地に勅令碑を設置

└〔5. 仏典の結集〕(編纂)、各地への布教活動

④王の死→衰退…官僚組織・軍隊の維持による財政難、バラモン階層の反発

(2) クシャーナ朝と大乘仏教

Q：クシャーナ朝は、ほかの地域とどのような関係をもっていたのだろうか。

①マウリヤ朝衰退後の混乱…周辺諸勢力の西北インド進出

┌前2世紀、ギリシア人勢力・イラン系遊牧民の進出

└後1世紀、バクトリア地方→クシャーン人がインダス川流域進出

②〔6. クシャーナ朝〕(1～3世紀)

①〔7. カニシカ王〕(2世紀半ば)：最盛期…中央アジア～ガンジス川中流域支配

②クシャーナ朝の領域：交通路の要衝→活発な国際交易・東西交流

┌〔8. ローマとの交易〕の隆盛…大量の金がインドに流入

└大量の金貨発行…イランやギリシア、インドの文字や神々が刻印

③滅亡(3世紀)…西：ササン朝の侵攻、東：地方勢力の台頭

④仏教の革新運動(紀元前後)

菩薩信仰の拡大…出家しないまま修行をおこなう意義を説く

→〔9. 菩薩信仰〕…自身の悟りよりも人々の救済を重視

┌大乘の自称：「あらゆる人々の大きな乗りもの」の意

| →旧来の仏教(自身のみの悟りを目的に出家者がきびしい修行)を利己的と批判

| …小乗の呼称 ※現在は小乗にかわって部派仏教の呼称

| →上座部は前3世紀にセイロン島、さらに東南アジア大陸部へ伝播

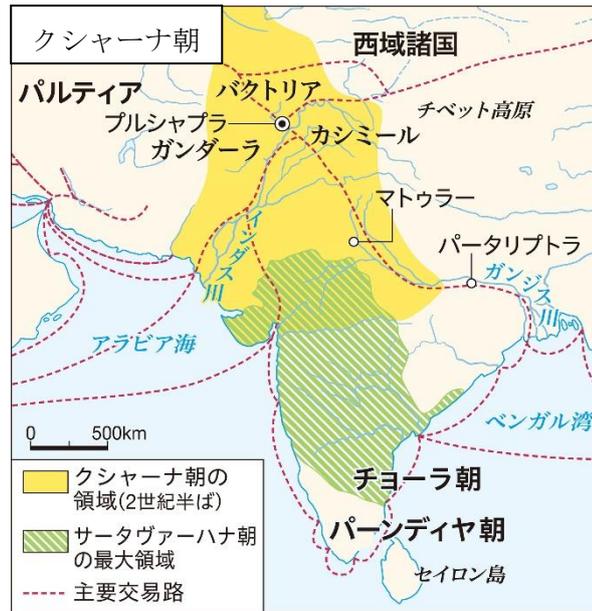
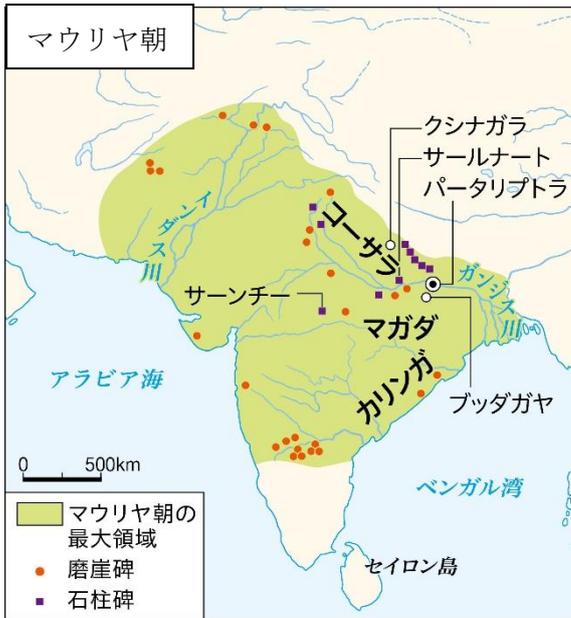
└〔10. 仏像〕(ブッダの具体的な像)の誕生…ヘレニズム文化の影響

└クシャーナ朝の保護…仏教美術(ガンダーラが中心)とともに伝播

| →中央アジア・中国・日本に影響

└竜樹(ナーガールジュナ)の「〔11. 空〕」の思想→仏教思想に多大な影響

・左と右の地図を見て、違いを見てみよう。



(本時のまとめ)

STEP 3 (まとめワーク)

① (重要だと思ったもの)

④ (結論) 相手の意見を必ず入れよう!

② (理由)

③ (相手の意見で面白いと思ったところ)

第3回 インド洋交易と南インドの諸王朝

本時の問い：「海の道」において、重要な交易品は何だろうか？

STEP1 (資料の読み取り)

・上の画像は「海の道」、下の画像は「絹の道」の様子である。比べてみて、気付いたことを挙げてみよう。

海の道 (11~12 世紀頃)



絹の道 (~15 世紀頃)



(共通点)

(相違点)

(話してみて気付いたこと)

STEP 2 (講義)

- ①南インド（インド半島南部）の文化風土… [1. ドラヴィダ系] の人々の居住地
┌紀元前後～、タミル語を用いた文芸活動が興隆
└ [2. バクティ運動] のなかで多くの吟遊詩人が生まれる
- ②インド洋交易と「[3. 海の道]」
 - ①古くから [4. ローマ帝国] と交易関係…ローマ貨幣が各地で大量に出土
 - ②西方との交易…ギリシア系商人が活動を開始する1世紀頃から興隆
 - ③東方の中国と結ぶ航路の開拓
┌背景：ローマ帝国の衰退→東南アジア・中国との交易の重要性増大
└マラッカ海峡・インドシナ半島南部：航海上の要衝
セイロン島・扶南・チャンパー・シュリーヴィジャヤなどが香辛料・絹・茶・陶磁器などの交易で繁栄
 - ④「海の道」の成立…南インド：綿布などの重要商品を産出
地中海～紅海・ペルシア湾～アラビア海～南アジア各地～東南アジア・中国
- ③ [5. サータヴァーハナ朝]（前1世紀～後3世紀）
マウリヤ朝の衰退後、デカン高原～インド洋沿岸で勢力保持
┌仏教・ジャイナ教の興隆
└北インドから南インドへ多くのバラモンを招聘→南北の文化交流進展
- ④ [6. チョーラ朝]（初期）・[7. パンディヤ朝] …インド半島南端の王朝
→サータヴァーハナ朝と同様に綿布などを輸出するインド洋交易を担う

☆『エリュトラ海案内記』を読み、当時の航海の工夫に関する記述を探そう。

初めて航海長のヒッパロスが、交易地の位置と海の形状とを勘案して、外海を横断する航法を発見した。それ以来我々のところのエーシアイ①の季節に、大洋から局地的に「いくつかの」風が吹くが、インド洋では南西風がおこり、「その風は」横断航法を最初に発見した人の名に因んで「ヒッパロスと」呼ばれる。……「インド半島南東部のコロマンデル海岸地方では」リミュリケー②まで陸に沿って航行する地元の船や、非常に大きな丸木舟をくびきで繋ぎ合わせたサンガラと呼ばれる別の船、またクリューサー③やガンゲース④に渡航する極めて大きなコランディオポータ⑤が「輻輳して」いる。
(薜勇造訳注『エリュトラ海案内記2』)

※①地中海で夏季に北西の方角から吹く風。②インド半島南西部のマラバル地方。③東南アジアの地名と考えられている。④ガンジス川下流のベンガル地方。⑤船の一種。

(本時のまとめ)

STEP 3 (まとめワーク)

① (重要だと思ったもの)

② (理由)

④ (結論) 相手の意見を必ず入れよう!

③ (相手の意見で面白いと思ったところ)

第4回 インド古典文化とヒンドゥー教の定着

本時の問い：グプタ朝のもとで、インドの古典文化はどのように根付いていったのだろうか。

STEP1（資料の読み取り）

- ・上の画像はインドの祭り、下の画像はガンジス川の様子である。比べてみて、気付いたところを挙げてみよう。



出典：『グローバルワイド 最新世界史図表』 帝国書院



出典：『世界の諸地域 NOW 2024』 帝国書院

(共通点)

(相違点)

(話してみて気付いたこと)

STEP 2 (講義)

(1) グプタ朝とインド古典文化の黄金期

Q: グプタ朝のもとで、宗教や文化はどのように展開したのだろうか。

① [1. グプタ朝] (320 頃～550 頃)

└ [2. チャンドラグプタ 2 世] の治世: 最盛期…北インド全域を支配

└ 分権的な統治体制…構成: 中央部の直轄領、従来の支配者がグプタ朝の臣下として統治する地域、貢納をおこなう周辺の属領

② 宗教の隆盛とバラモンの復権

① 仏教・ジャイナ教の隆盛…中国 (東晋) から法顕が訪印

② バラモンの復権 └ バラモンに村落からの租税収入付与

└ [3. サンスクリット語] (バラモンの言葉) の公用語化

③ ヒンドゥー教の定着…民間の信仰・慣習を吸収

└ 多神教…シヴァ神・ヴィシュヌ神などの神々、特定の教義や聖典なし

└ 日々の生活や思考の全体に関わる宗教→現在に至る

④ 古典の完成とサンスクリット文学

└ 『[4. マヌ法典]』…前 2～後 2 世紀成立: 4 ヴァルナの規範・バラモンの特権を強調
└ 二大叙事詩の完成 ※南アジア・東南アジアの影絵や舞踊などのテーマへ

└ 『[5. マハーバーラタ]』…バラタ族の王位争奪の物語、様々な神話・伝説が挿入

└ 『[6. ラーマヤナ]』…王子ラーマとその妻シーターとの物語

└ 戯曲『シャクンタラー』…宮廷詩人 [7. カーリダーサ] 作

⑤ 諸学の発達と経済活動…インド古典文化の黄金期

① 天文学・文法学・数学の発達

└ 十進法による数字表記

└ [8. ゼロの概念] の成立

→イスラーム圏に伝播: 自然科学発展の基礎

② 美術…ガンダーラの影響から脱却→純インド的なグプタ様式成立

③ 都市の経済活動の活発化→多種の貨幣: 王の像を描いた金貨・タカラガイ

⑥グプタ朝の衰退とヴァルダナ朝

- ① 衰退原因 ㊦遊牧民エフタルの進出による交易の打撃→6世紀半ば滅亡
㊧地方勢力の台頭

- ② [9. ヴァルダナ朝] (606~647) の成立
ハルシャ王、北インドを支配→死後衰退

⑦仏教の動向

- ① 多くの支配者：ヒンドゥー教の熱心な信者…仏教・ジャイナ教も保護
㊦ [10. 玄奘] …ハルシャ王の厚い保護をうけ、[11. ナーランダー僧院] で学ぶ
㊧ →帰国後『大唐西域記』を著す

- ㊨ [12. 義浄] …7世紀後半訪印後、帰途に『南海寄帰内法伝』を著す

- ② 仏教の衰退理由 ㊦グプタ朝衰退後の商業活動の不振→商人の支援を失う
㊧バクティ運動の興隆→初期に仏教・ジャイナ教を攻撃

- ※ [13. バクティ信仰] …シヴァ神やヴィシュヌ神への熱烈な信仰、神の愛の強調、歌や踊り

(2) 地方王権の時代

- ① 地方王権：イスラーム勢力進出前 (8~10世紀)

- …統一的な中央政権が存在せず→多数の地方王権からなる時代

②北インド

- ① [14. ラージプート] (ヒンドゥー諸勢力の総称) が抗争



- ② ラージプート…支配の正当性を誇示→これらの施設を建設

③ベンガル地方

- [15. パーラ朝] (8世紀半ば~12世紀) …ナーランダーを仏教の中心地として復興

- 仏教最後の繁栄期…王朝の衰退とともに再び勢力を失う

④南インド

- [16. チョーラ朝] (前3世紀頃~後4世紀頃、9~13世紀)

- ㊦灌漑施設の建設…安定した農業生産

- ㊧「海の道」での活発な交易活動→最盛期：10~11世紀

- ㊦セイロン島・東南アジアに軍事遠征

- ㊧中国の北宋に商人使節を派遣

(本時のまとめ)

STEP 3 (まとめワーク)

① (重要だと思ったもの)

② (理由)

④ (結論) 相手の意見を必ず入れよう!

③ (相手の意見で面白いと思ったところ)

プリント No. 5

年 組 番 氏名

単元3 「南アジア世界と東南アジア世界の展開」 (教科書 p. 60～62)

第5回 東南アジアの風土と人々

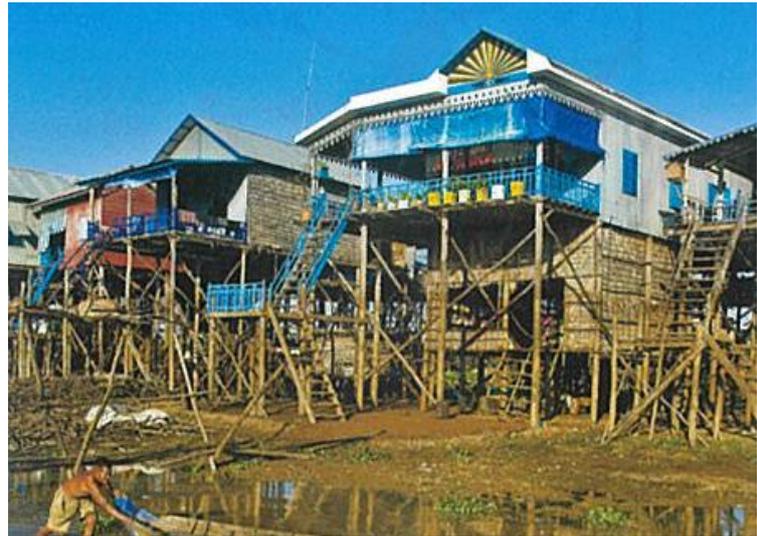
単元の問い：東南アジアにおける国家形成には、どのような特徴があるのだろうか

本時の問い：東南アジアの風土は、国家形成にどのように影響したか。

STEP1 (資料の読み取り)



出典：Bobo. id



出典：『新詳地理資料 COMPLETE 2024』帝国書院

(共通点)

(相違点)

(話してみて気付いたこと)

STEP 2 (講義)

① 東南アジアの自然条件と文明

- ① [1. 大陸部] : インドシナ半島中心…山地から流れ出る大河がデルタを形成
→ 様々な言語を話す人々が入り組んで分布
- ② [2. 諸島部] : マレー半島～現在のインドネシア・フィリピン…河川・海が交通路
→ マレー系の諸言語を話す人々が移動を繰り返す

- ③ 気候…大陸部・諸島部ともに高温
 - ┌ [3. 熱帯雨林気候] (年中雨量多)
 - └ [4. サバナ気候] (雨季・乾季に二分)

② 外部世界との接触

- ① [5. 香辛料] など豊かな資源…早くから外部世界と交流
→ [6. 南アジア・中国、イスラーム諸勢力] の影響を受けつつ独自の文明を構築
- ② 南アジアや東アジアとの海上交易の拡大→多くの [7. 港市国家] が誕生
 - ┌ 15世紀～、 [8. マラッカ] を中心とする交易活動
 - | → 16世紀～、 [9. 西欧] 勢力が進出
 - └ 19世紀～、中国南部・南インドから多数の人々が流入…定住者増加
→ 外部世界の人々と文化を受容：今日の東南アジア世界が形成

(本時のまとめ)

STEP 3 (まとめワーク)

① (重要だと思ったもの)

② (理由)

③ (相手の意見で面白いと思ったところ)

④ (まとめ) 相手の意見を必ず入れよう!

本時の問い：東南アジアは、南アジアや中国とどのように関わりながら、独自の王朝や文化を発展させたのだろうか。

STEP 1 (資料読み取り)

- ・上の画像はマレーシアの街、下の画像はパキスタンの学校に関する画像である。比べてみて、気付いたことを挙げてみよう。



出典：『図説地理資料 世界の諸地域 NOW 2024』帝国書院



出典：『最新地理図表 GEO 2024』帝国書院

(共通点)	(相違点)
-------	-------

(話してみて気付いたこと)

STEP 2 (講義)

①大陸部の文化と国家形成

- ①a 青銅器の製作…前2千年紀末～、ベトナム・タイ東北部中心
- ①b [1. ドンソン文化] …前4世紀～、ベトナム北部を中心に発展
 - ┌ 中国の影響→独特の青銅器・鉄製農具
 - └ [2. 銅鼓] …中国南部～東南アジアの広範に分布 (交易・文化の広がりを示す)
- ①c [3. 扶南] (1世紀末～7世紀)
 - ┌ 南アジア・中国との交流→1世紀末、メコン川下流に建国
 - └ 港市 [4. オケオ] の遺跡：ローマ貨幣・インドの神像・中国の鏡が出土
- ①d チャンパー(2世紀末～17世紀)…ベトナム中部にチャム人が建国

②「インド化」以降の大陸部

- ②a 「[5. インド化]」：4世紀末～5世紀
 - ┌ 南アジアから船舶が盛んに来航→東南アジアの広範な地域で変化
- ②b カンボジア
 - ┌ 6世紀、メコン川中流域にクメール人が建国→扶南を滅ぼす
 - └ 9世紀以降、都をアンコールにおく
 - └ 12世紀、[6. アンコール=ワット] 造営…ヒンドゥー教・仏教の影響下、独自の様式・規模
- ②c エーヤワディー (イラワディ) 川流域
 - ┌ 9世紀まで、下流域にピュー人の国が存在…ビルマ(ミャンマー)系
 - └ 11世紀、中流域に [7. パガン朝] (1044～1299) 建国
 - ┌ 中流域・中央平原の稲作が経済基盤
 - └ インドやセイロン島から上座部仏教を受容

①チャオプラヤ川下流域

7～11世紀、モン人のドヴァーラヴァティー王国が発展→上座部仏教を信仰

②タイ北部

13世紀半ば、[8. スコータイ朝] (13～15世紀) 建国…タイ人最古の王朝
→上座部仏教を信仰

③諸島部の国家形成…「インド化」の進展→諸王国の成立

①スマトラ島

7世紀半ば、[9. シュリーヴィジャヤ] (7～8世紀) がパレンバンを中心に成立

┌海上交易に積極的に参加→唐に朝貢使節を派遣

└唐の僧、[10. 義浄] …インド往復の途中に滞在：仏教の興隆を記述

→三仏齊(ザーバジュ、10～14世紀頃) が継承・繁栄

②ジャワ島中部

┌シャイレンドラ朝(8～9世紀) 成立…大乘仏教国：仏教寺院

| [11. ボロブドゥール] 建設

| →その後、ヒンドゥー教勢力が強大化

└マタラム朝(732～1222) 成立…ヒンドゥー教国

④ベトナム

①前漢時代～、紅河デルタ地帯を中心とする北部地域…中国に服属

②[12. 大越] (ダイベト) の成立

┌10世紀末、北宋から独立→11世紀初め、[13. 李朝] (1009～1225) 建国

└13世紀…陳朝(1225～1400) 建国：漢字を利用したベトナム語である

[14. チュノム] を作成

→両王朝の統治…広域支配とはならず、チャンパー勢力と対立

③[15. チャンパー] (2世紀末～17世紀)

┌ベトナム中・南部で長期にわたって勢力を保持

| →南アジアの強い影響を受けた寺院群を建設

└インド洋から南シナ海を結ぶ海上交易に参加

(本時のまとめ)

STEP 3 (まとめワーク)

① (重要だと思ったもの)

④ (まとめ) 相手の意見を必ず入れよう!

② (理由)

③ (相手の意見で面白いと思ったところ)